



脚立に上っての作業。高いところに対する怖さも克服。丁寧に拭き掃除を行っています。

店頭に飾るための花を育てています。お客様から花の名前を聞かれることもあります。



お客様に配る記念品の袋詰め。当社のロゴが印刷されており、地域の皆様へ当社の活動の周知にもなります。

印刷の作業は自分で仕事の依頼を確認して、テキパキとこなしています。



私はさんしんハートフルが設立された当初から勤務しています。仕事は名刺の印刷や事務です。仕事の好き嫌いなく働いています。また、さんしんハートフルでは社員全員が自分の目標を立てているのですが、私の今月の目標は、「見落としがないように作業すること」です。達成できるよう頑張っています。



太田悠斗さん



ノベルティグッズの製作もさんしんハートフルの大事な仕事です。

さんしんハートフル株式会社

「障害のある人でも何でもできる」をモットーに、社員みんながいきいきと働いています

お話 森田記義さん(代表取締役)

親会社：三島信用金庫
所在地：伊豆の国市南條 711-1 ☎：055-949-8110
従業員：22名 うち障害のある人 15名
【内訳】 知的障害のある人 13名 発達障害のある人 2名

森田記義社長



Q さんしんハートフルはどのような会社ですか？

地域社会と共に発展してきた三島信用金庫が、この地域に暮らす障害のある方々に雇用の機会を提供し、社会的・経済的自立を支援することを目的として設立した特例子会社です。

そのため、法令で定められている雇用数は親会社で達成することを目標とし、私たちの特例子会社ではそれに加えての雇用を目指しています。

目的が地域貢献を視野に入れているからこそ、社員が皆、障害者雇用に対しポジティ

ブな気持ちで取り組むことができているのだと思います。

Q 特例子会社のよい点を教えてください

障害のある人が主役になれるのが、特例子会社の魅力だと思います。彼らがいないと、さんしんハートフルの業務は成り立ちません。例えば、事務作業において、社員は入社するとその日の注文を自分たちで確認します。そして自主的に仕事に取りかかります。上司が指示するわけではありません。このことは、障害のある社員の「自分たちの力で仕事ができている」という自信

にもつながっていると感じています。

また、一般企業では障害のある人が職場で孤立感を抱いてしまうケースもあるようですが、特例子会社であれば、同じように障害を抱えている仲間がいます。時には仲間と助け合い、自分の特性を生かした仕事をしていくことが生きがいとなっているのだと思います。

Q 障害者雇用で大切なことは何ですか？

障害のある人の雇用については、長期的な視点に立って物事をみていくことが大切だと考えています。

わが社は「障害があっても基本的には何でもできる」をモットーに、挑戦する姿勢を大事にしています。例えば、年末に各支店の照明器具の掃除を行ったときのこと。照明器具の掃除ですから脚立に上る必要があるのですが、最初は上ることを怖がってしまう社員が多くいました。しかし、ここで諦めてしまえば成長につながりません。ゆっくり丁寧に指導した結果、今では誰もが脚立に上って掃除ができるようになりました。

このように長期的な視点でみていけば、障害のある社員も確実に成長していくと思っています。

パックにタレを封入する作業。規定量を入れる正確さが求められます。



田中京子さん

名波直幸さん(左)と前島竜太さん(右)



大根の皮剥き。作業スピードは速く、大根1本剥くのに10秒はかかりません。



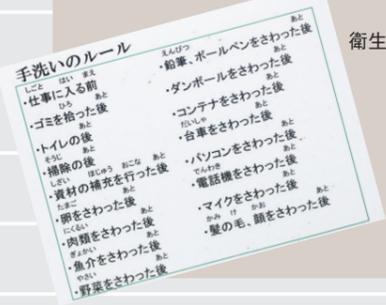
増田秀野さん

私の作業は包丁を使って鶏肉をカット、とんかつ肉の筋切り、唐揚げ肉の計量などです。最近では牛丼のバック詰め作業を一人で任されるようになりました。会社の人たちは「作業が速くなったね」とほめてくれます。また、私はいま親元を離れグループホームで共同生活をしています。グループホームでは世話人さんと食事の支度をするので、包丁の使い方が上手くなり、それが職場でも役に立っています。

野菜の土汚れを洗浄しています。手間がかかるので、当社で行っておくと親会社の作業がはかどります。



店頭で使いやすくするために、カットした野菜を個別の袋に詰めています。



衛生指示書

ビック・ハートで親子丼の具などをつくっている部署の指導員、前島さん。ビック・ハートきてのほめ上手の一人。障害のある人には、障害特性や性格をみて、各々に向いている作業に就いてもらっているとのこと。「大雑把な人には箱詰め、几帳面な人には計量などを頼んでいます。障害のある人へわかるように作業の方法を教えることは大変ですが、それを覚えてくれた時は、とても嬉しく感じますね」。

株式会社ビック・ハート

できた仕事をほめて伸ばす、働き甲斐のある職場。親との連絡ノートで、日々の成長を実感できます

お話 名波直幸さん(責任者)

親会社：天神屋
所在地：焼津市越後島 470 ☎：054-621-3331
従業員：16名 うち障害のある人 10名
【内訳】 知的障害のある人 10名



Q ビック・ハートのポリシーを教えてください

「地域のために障害者雇用を行う」という社長の強い思いから、3年前に特例子会社の設立に至りました。

指導員は障害のある人に感謝の気持ちを持って接しており、仕事を達成した時には、「今日はできたね!! すごいね」と声をかけます。「ほめられる」「役に立っている」という感覚を持つことは、社員の仕事に対するモチベーションの向上にも役立っていると感じています。それが当社の就労定着に

つながっているのです。

Q 業務内容や社員の様子について教えてください

当社は、親会社である天神屋で販売するおかずの調理手伝いを行っています。

例えば、調理に使う野菜の皮むきなどはビック・ハートの社員が行います。そうすることで、天神屋の社員は調理の仕事に専念することが可能となるからです。

ビック・ハートの社員の働きは親会社の人件費削減や作業効率の向上につながっています。

「君たちが仕込みの手伝いをしてくれているから、僕たちが作業に集中できるんだよ。ありがとう」ということを、彼らに伝えると本当に嬉しそうにしてくれますね。

Q 雇用継続のための取組みについてお聞かせください

家族との情報交換のために連絡ノートを用いています。家族が協力してくれることが雇用を成功させる一番大事な部分だと思います。仕事における課題を指摘する場面でも、指導員だけで指摘するより、家族と連携したほうが社員たちもすんなり聞き入

れてくれるからです。

立ち上げた当初は指導員が当日行った仕事内容を書いていました。現在では、社員自身が書き込むようになっています。そこに指導員も返事をするようにしています。この連絡ノートは親だけではなく、社員と指導員とのコミュニケーションにもなっています。中には2~3ページぎっしりと書いてくれる人もいますよ。

連絡ノートによって仕事内容や社員の様子を知ることができるのは親も安心でしょう。また、社員も自分自身の仕事の成果がわかり、成長を実感できているようです。



課長の櫻井正美さん。分かりやすい教え方を信条としています。



Yさん

毎日の朝礼で一日の仕事の流れと分担を確認します。



支援スタッフの高野玲子さん(左)と佐藤智保さん(右)



以前は、何をしたらよいのかわからなくて、頑張れないことがありました。こちらでは、支援スタッフの方からの確かな指示がもらえて、仕事に対してやりがいを感じています。アステラスの工場があることは以前から知っていたので、気持ち的にもなじみやすかったです。

たくさんの使用済み資料を仕分けして廃棄処理に回します。



清掃業務終了後の用具の取り扱いも慣れてきました。

いくつか仕事に就いてきましたが、今とは比べものにならないほど、精神的にきつかったですね。ここでは支援スタッフが悩みの相談ののってくれますし、生活面でもアドバイスしてくれます。将来的には、お金を貯めて一人暮らしをしたいと思っています。

<労働条件>

- 労働時間 30時間 / 週
月～木 9:00～16:15 (6時間15分)
金 9:00～15:00 (5時間)
- 休 暇 年次有給休暇及びその他休暇 (慶弔、看護他)

仕事はしっかりできるし、きびきびと動いています。ここでは女性用の更衣室やトイレの清掃など、女性ならではの重要な仕事があります。女性の社員は4人いますが、佐藤さんも他の女性社員と一緒に頑張ってくれていて、頼りにしています。

アステラス総合教育研究所株式会社

最も重要なことは、仕事を通じて一人ひとりが総合的に成長を果たし、自立に向けて着実に前進すること！

お話し 櫻井正美さん(グリーンサプライ支援室 課長)

親会社：アステラス製薬株式会社
所在地：焼津市大住 180 ☎：054-627-6582
従業員(焼津)：16名 うち障害のある人 11名
【内訳】身体障害のある人 1名 知的障害のある人 9名 精神障害のある人 1名



Q アステラス総合教育研究所はどのような会社ですか？

アステラス総合教育研究所は、アステラス製薬グループ内の人材開発に関するトータルコンサルティング、研修プログラムと研修環境(研修センター施設)の提供などを行っている会社です。

同時に、アステラスグループの特例子会社の役割も担っています。組織としては、企画部と業務管理部に分かれており、企画部は主に人材育成、業務管理部は研修支援、研修センター運営業務などを行っています。

グリーンサプライ支援室は業務管理部に置かれており、焼津の事業所では、①作業服のクリーニング、②機密文書の回収、廃棄処理、③厚生棟内の清掃、④除草作業、花卉管理などを主要業務としています。

Q グリーンサプライ支援室の位置づけは？

現在、アステラス総合教育研究所に属するグリーンサプライ支援室は、2011年4月に関連会社であるアステラスビジネスサービス株式会社の一部門として誕生しました。特例子会社ではなくても、環境整備ができる部門が障害者雇用に取り組もうという動きが社内に生まれ、プロジェクトチームが結成されました。そして、つくば研究センター(茨城県)内に開設されたのです。

2013年10月には、組織力の一層の強化を狙い、アステラス総合教育研究所に編入され、2014年10月に2か所目の組織として、焼津事業場内に開設されました。知的障害のある方々の特性を考慮して業務が設計されましたが、さまざまな障害のあるメンバーが働いています。

Q 育成方針をお聞かせください

当社では「社会性」、「対人スキル」を含め、さまざまな能力が周囲の指導や本人の努力によって向上すると信じて、日々取り組んでいます。また厳しいながらも楽しく、働きがいのある職場をつくと共に、多面的な指導体制を実現し、本人の成長を促すことを支援方針としています。

そのためには、朝夕の支援スタッフ全員によるミーティングで課題を共有し、タイムリーに対応できる運用体制を実現しているほか、ご両親や支援センターを交えて、育成会議を実施しています。また「マナー」「倫理」「自立」などをテーマに、全員を対象とした研修を毎月行い、社会人としての基本を学んでいます。

最も重要なことは、ここでの仕事を通じて一人ひとりが総合的に成長を果たし、自立に向けて着実に前進することだと、私たちは考えています。

Q グリーンスタッフのやる気を引き出す秘訣は？

当室では「障がい者」という表現は使いません。業務が環境美化、緑化、リサイクル処理関連業務が多いことから「グリーンスタッフ」という呼称にしています。

雇用形態は、1年ごとに更新する契約社員ですが、原則更新のうえ、社会保険も完備させ、福利厚生面でもアステラス製薬と同じ条件が適用されています。

また年2回の賞与に加え、年度ごとの評価に応じた昇給もあります。これがスタッフのモチベーション維持に役立っています。

みんなの声



矢崎ビジネスサポート 指導員 伊達幸子さん

2号ジョブコーチ（職場適応援助者）として、実際に障害のある人と接する伊達さん。「きっかけは8年前です。メール室で私は自閉症の男性と一緒に働いていました。初めはどう接していいかわからず戸惑うばかりでした。しかし、得意、不得意のアンバランスさを周りの人が理解し、支援をしていけばその方が素晴らしい能力を発揮することに気づいたのです」。

2号ジョブコーチとして、代弁者として障害のある人の可能性を伝えたい、と語ってくれた伊達さん。職場では優しく障害のある人を見守っている存在です。

スズキ・サポート 指導員 大杉佳津子さん



「障害により一人ひとり個性があり、その対応が難しいですね。ただ社員たちは大変明るくて、いつも冗談を言い合いながらやってます」そう笑顔で語ってくれた大杉さん。スズキ・サポートに入るまでは障害のある人と接する機会はなかったとのことですが、巨人ファンということで同社の高柳和生さん（9ページ参照）と意気投合しているようです。



さんしんハートフル 社員 岩切隼人さん

各営業店から依頼があったポスターやチラシの印刷を行っている岩切さん。「印刷などは相手の顔が見えません。その分、丁寧にきれいに作成しています。そうしていると相手から『ありがとう。またお願いします』といった言葉をもらえ、それが自分にはとても嬉しく感じます」と語ってくれました。初任給を両親との食事に使ったというお話からも優しい人柄を感じます。

ヤマハアイワークス 主任 原田貴志さん



下肢に障害を負って入社し、15年目の今では約20名のデータ入力業務をとりまとめる原田さん。「指示するうえで気をつけていることは、『早く』とは決して言わないことです。焦るとパニックを起こす方もいて、わからない場合は、3回でも4回でも説明しています」。障害のある人一人ひとりの個性をすべて把握している、頼れるリーダーです。



アステラス総合教育研究所 社員 村松三樹夫さん

「仕事ではたくさん覚えることがありますが、焦らずに楽しくやっています。特に困っていることはありません」と言う村松さん。喘息の発作が出たことがあったので、健康管理には気をつけていると言います。

「村松さんは手先が器用で、頑張ってくれています。必要に応じ、他の方を援助してくれるので助かっていますよ」と中村さん。信頼関係ができあがっているようです。



アステラス総合教育研究所 支援スタッフ 中村仁美さん

1章

特例子会社をつくろう